

令和6年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価 (月 日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	<p>①グローバル社会における多様な価値観を理解し、協働して社会で活躍できる人材を育成する。</p> <p>②学校行事や生徒会活動を通じて、主体的に課題に取り組む姿勢を養う。</p>	<p>①校内の ICT 機器、生徒のタブレット等を利用し、インタラクティブな学習活動を充実させる。学習アプリを活用し、個別最適な学習の主体的な取組みにつなげる。</p> <p>①外国語教育の充実、姉妹校を含む国際交流、海外修学旅行等、国際社会へ参画する力を育成する。</p> <p>②体育祭及び氷焱祭の時期を見直したが、適切かどうかを検証する。</p> <p>②生徒が積極的に行事や委員会活動に取り組み、自らコのコミュニケーション能力を発揮する力を育成する。</p>	<p>①ICT 機器、生徒のタブレット等を効果的に活用し生徒間や教員との相互的な活動をもとに学びを深める。</p> <p>①学習アプリを利用し、対話的な学習活動や個別最適な学習活動を行う。</p> <p>①オンラインでの交流も続けながら、直接交流の際にはより多くの生徒が関わられるような機会をつくる。</p> <p>①日常的に「話す」活動を積極的に取り入れ、スピーチ・プレゼンテーションコンテストの質的向上を目指す。</p> <p>②多くの教職員が、学校行事、部活動等について本校 HP の更新を積極的に行う。</p> <p>②各行事の前後の活動に無理が生じていないか方面ごとに検証する。</p> <p>②生徒同士がコミュニケーションをとりながら、生徒主導で行事を組み立てられるよう、教員が投げかける形で行事・委員会活動を進める。</p>	<p>①生徒のタブレットや ICT 機器を用いたインタラクティブな活動がデータ上からも十分に実施できたか。</p> <p>①授業改善につながるような学習アプリ等の研修を実施できたか。</p> <p>①様々な国際交流を行うことで、国際理解教育がより充実したものになったか。</p> <p>①様々な国際交流に参加した生徒たちの達成感や充実感の向上が図れたか。</p> <p>①スピーチ・プレゼンテーションコンテストを通して、英語力の向上を感じるとともに、グローバルな視点を養うことができたか。</p> <p>②令和5年度に比べて、HPの更新頻度が上がったか。</p> <p>②各行事の進捗状況は効率が良かったか、方面ごとに振り返る。</p> <p>②行事・委員会活動ともに振り返りの場を設け、生徒主体で進めることができたかを検証する。</p>					
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	<p>①生徒一人ひとりに寄り添い、教育相談体制を充実させる。</p> <p>②部活動や行事を通して連帯感や責任感の涵養を図る。</p>	<p>①かながわこどもサポートドックと教育相談(いじめ)アンケートのシームレスな実施を目指す。</p> <p>①SCとSSWの勤務日違いの問題を、今年は職員へのしわ寄せが解消できるよう継続的に工夫する。</p> <p>②生徒間の人間関係が健全に構築できるよう、指導を工夫する。</p>	<p>①かながわこどもサポートドックの項目追加の工夫と、ペーパーベースの教育相談(いじめ)アンケートの実施によりスピーディー且つ効果的に潜在的いじめ・いじりなどのあぶり出しをする。</p> <p>①昨年度に継続し、定例コア会議の活用を通し、生徒の課題への気付きを進める。</p> <p>①個々の生徒が、人間関係</p>	<p>①かながわこどもサポートドックにより明らかになった点を生徒支援に生かすことができたか。</p> <p>①教育相談(いじめ)アンケートによる情報収集により、生徒の人間関係の問題点を把握し、支援に生かすことができたか。</p> <p>①コア会議が、生徒の抱える問題の気付きに活かされたか。また課題のある家庭の掌握に役だった</p>					

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価(月 日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
			②部活動の活動報告や大会情報を生徒の目に多く触れさせ、相互の活動を認め合い、連帯感をはぐくむ。また、救急救命講習会等を通して部活動に参加している責任感を育む。	こじれなどに起因するメンタル事象を乗り越えるような精神的自立を促す指導をさらに充実させる。 ②昇降口モニターやHPを通して、相互の活動を高い頻度で発信し、応援やコミュニケーションに繋げる。	か。 ①生徒が抱える課題について、どのような指導の工夫が可能であったか、意見集約などで検証する。 ②部の活動報告や大会結果など情報を、必要十分な頻度で発信ができたか。				
3	進路指導・支援	①自己と集団や社会との関わり、職業観、倫理観、使命感等を育成する。 ②自他の幸福を追求し、自立し、たくましく生きるための基礎力を身に付けさせる。	①生徒が自己の人生をプランニングできる能力を開発する。 ②生徒の他者を思いやる心や、社会に貢献する意欲を育む。	①生徒に単に進路希望を問うだけでなく、自己の生き方あり方を問いかけるガイダンスを実施する。 ②個別学習に対応したシステムを全学年に導入し、学びの基礎力を高める。	①進路支援グループ職員を核とし、各学年の教職員が共通の視点で指導を行えたか。 ②スタディサプリを全学年導入し、個に対応した学びを充実させることができたか。				
4	地域等との協働	①家庭、地域の教育力を活用し 地域との交流活動を通し、保護者や地域に信頼される学校づくりをめざす。	①本校HP、X(旧Twitter)等の広報媒体を充実させる。 ②学校運営協議会委員との協働等により、様々な形の地域連携を模索する。	①各媒体の更新頻度を増やし、新しい情報を随時発信する。 ②地域が本校に対し、どのような貢献を求めているか、学校運営協議会等を通じて情報収集し、可能なところから協力していく。	①HPの更新頻度が令和5年度に比べて増加したか。 ①新しい情報、求められる情報等の発信が安定的に行われていたか。 ②学校運営協議会等で収集した情報を地域貢献に生かすことができたか。				
5	学校管理 学校運営	①安全で安心な学習環境の維持に努め、点検・改善に努める。 ②信頼かつ信用ある学校経営に努め、事故不祥事根絶に向け、強い決意をもって臨む。	①丁寧な広報活動を目指す。 ①様々な機会を通じて生徒の防災意識を高める教育活動を行う。 ①生徒が主体となって美化活動と資源の再利用に努める。 ②成績処理支援システム等を用い、成績処理や生徒の情報管理を一元的に行うことで個々の業務の効率化を図る。	①各種説明会、学校案内等において、生徒が活躍できるような場を増やし、生徒及び保護者の目線に立った広報活動を行う。 ①現況に即した防災訓練を実施すると共に、DIG等を実施する。 ②成績処理支援システム等を利用して、日々の出欠等の生徒の情報を電子的に管理することを徹底する。	①各種説明会において、生徒が中心になって進み、生徒が活躍する場となったか。 ①アンケートを通じて生徒の防災意識が高まったか。 ①アンケートを通じて生徒の校内美化意識や資源回収意識が高まったか。 ②生徒の情報の電子管理が徹底され、成績処理期間にその確認作業が偏らないか。				